

「事業名：公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた復興知人材育成

東京大学 連携市町村：新地町

現地拠点：相馬郡新地町駅前1丁目5番地 観海プラザA棟1階 新地アーバンデザインセンター

事業のポイント

福島県新地町において、次世代の学びの基盤創出、地域活動の実践型演習、大学の知の集積と地域への還元、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点UDCしんちを活用して公・民・学共創により実践する。これにより、復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。

人材育成目標

本事業では、次の人材育成目標を掲げて活動を行う：①学校の地域学習に大学の持つ知的資源を融合させた授業の受講をとおして、地域への当事者意識を醸成し、高校卒業後も地域と主体的に関わることのできる中高生世代の育成、②地域の関係人口として、時間の経過とともに変化する地域の復興状況や、地域の人的心情や意向を丁寧に理解するという地域に関わる観点を習得し、それを実践することができる大学(院)生の育成、③町の未来を見据えた地域づくりや人づくりにかかる活動を、主体的に企画ならびに実践できる地域住民の育成

2024年度の活動内容

- UDCしんちの主催する「まちづくり懇談会」から生まれた、町民の創意による「地域食堂」や「子供の居場所づくり」の具現化を目指し、UDCしんちが大学の知を活用しながら地域住民の主体的な活動を支援する。UDCしんちコーディネーターはこれらの活動を町の広報誌やSNSで発信し、地域における活動の環をひろげ、町の内側から多彩な地域活動が生み出される土壌をUDCしんちに育む
- 任意団体として新たなスタートを切ったUDCしんちが、センター長の指示のもと組織基盤整備を行い、拠点運営を安定させる。自走化に向けた多様な活動財源の確保を推進し、活動のゆるやかな拡大を図る
- 「地域活動デザインスタジオ」は、住民と大学院生の共創・協働による地域づくりの実践に継続的に取り組む
- 「情報環境デザインスタジオ」は、浪江町における被災者に寄り添うメディア制作を行い、国際連携を推進する
- 「関係人口創出プログラム」は、新地町の地域資源を活用した着地型観光の振興等をテーマに活動を展開する
- 「環境システム学輪講」と「環境システム学輪講」は、新地町の再生可能エネルギーとエネルギー需要についてに取組み、その研究成果を「尚英中学校エネルギー学習」と「尚英未来エネルギー倶楽部」において還元する

取り組みによって得られる成果

UDCしんちの場を活用した地域住民の課題解決に向けた取組みが、地域共生社会の実現につながり、その成果が新たな地域活動の創出を誘発する、持続可能なまちづくりに向けた成功の好循環が新地町に構築される。さらには、そのグッド・サイクルの継続的な循環に関わる多様な主体が、本事業が目指す復興知人材として成長する

